

宇宙科学研究寄付金の使途について

再使用観測ロケットは、従来型のロケットでは実現できない新しい飛翔機会（ペイロードの発射点への持ち帰りや、容易な繰り返し実験機会、飛行の自在性や取得可能なデータ量の飛躍的な増大など）を提供することから、大気科学・成層圏科学などの新規分野の新たな展開、あるいは微小重力科学研究の活性化など、宇宙科学の研究活動の拡大に大きく寄与するものとして期待されています。

現在、「弾道飛行の後、発射点に帰還する能力」、「観測ロケットとして実利用が可能な性能・能力」を有し、かつ「高頻度な繰り返し再使用運用が可能」な機体の実現を目指して技術実証プロジェクトを進めています。いただいた寄付金は、繰り返し運用の鍵を握る技術実証エンジンの開発費用の一部として使わせていただきました。メンバーと一緒に写真に写っているのが試作した液体酸素ターボポンプです。繰り返し運用を可能とするために従来のロケットエンジン用ターボポンプにはない様々な工夫が盛り込まれています。平成 25 年 3 月から性能と機能を確認する試験を開始する予定です。

再使用観測ロケットは、エンジンを 4 機搭載し、1 機故障しても地上に安全に戻って来られるシステムの実現を目指しています。その先にあるものは、地上と宇宙とを毎日のように行き来できる乗物としてのロケットです。皆さんからいただいた寄付金は、単に宇宙科学研究へのご支援に留まらず、そんな世界を一日も早く実現させるためにも使わせていただいたこととなります。本当にありがとうございました。



再使用観測ロケット運用イメージ図